

目標に向かってともに活動する先輩や後輩との時間はとても大切な思い出

M. K.

慶應義塾大学 法学部 政治学科 進学
国立 茨城大学教育学部附属中学校 卒業

私は私立文系コースでした。そのため高校3年では国語・英語・歴史の授業を主に受けていました。授業形式は担当の先生によって大きく変わりますが、一貫して真剣に予習復習に取り組めば授業に遅れをとることはほぼありませんでした。高校1年の時は課外ではむやみやたらにたくさん取ってしまい、モチベーションが続かなくて後々後悔しました。高校2・3年では自分自身で伸ばしたい教科の課外を受けるようにしました。また私は高校1年の後半から高校2年の前半に映像系の学習塾に通っていました。しかし受講のノルマというものに追われてしまい、授業の予習復習を行う時間も少なくなり半年で退塾しました。おそらく私は塾と学校を両立できるタイプではありませんでした。塾のメリットはたくさんありますが、個人的な質問は先生方にできるし、範囲外の学習も教えてくれるので塾に通っていないから学習面で後れを取ったということはありませんでした。進路指導では面談はいつでも行ってくれるため私は早い段階から推薦入試について相談していました。担任の先生でなくても私にはない視点からアドバイスをしてくださる先生方もいて進学に対して前向きに考えられました。

私は3年間、文化祭実行委員会執行部に所属していました。文化祭の期間の4月から6月のみの活動でしたが、期間外でも親しくすることができる仲間と出会うことができました。文化祭の開催という大きな目標に向かってともに活動する先輩や後輩との時間は私にとってとても大切な思い出となっています。高校3年では文化祭実行委員長という責任のある役目にプレッシャーに潰されそうになることが多々ありましたが、実行委員の活躍や先生方のサポートにとっても救われました。またそれだけでなく、友人との何気ないくだらない会話が私の思い出です。授業と授業の休み時間や放課後に話したことが意外に大切だったりします。ただ今日の空はすごく青くて夏が始まったみたいという話や今日の授業はすごく眠かったけど頑張れたという話を覚えています。特別に遊びに行くことがなくても友達との会話が本当に楽しかったです。

恥ずかしながら私は県立受験に失敗し、また兄や父の出身校であったため茨高に進学を決定しました。高校3年からクラスが混合となった一貫生とはとてもいい関係を築けたと思います。高校1・2年のときは一貫生とはあまり接点がなく、親しくなるまでの壁を勝手に感じていました。部活動に所属すれば部員内で親しくすることはできるが、所属していない人は一貫生と仲良くするのは難しいと思っていました。しかしお互いに感じていた壁は高校3年になるとあっさりと消えました。高校3年になってカリキュラムが同じになれば一貫と高入の区別なんて必要がなくなります。一貫と高入の壁は私達が勝手に作っていただけであまり気にすることではなかったです。

大学では政治学科に進学して地方行政について深く学ぶ予定です。政治学を単一の学問の分野として学ぶだけでなく、幅広い科目と組み合わせて固定的な思考にとらわれることのないよう努力します。部活動や学外での活動も活発に行い、社会人になる上での権利と責任などを学べるようにしたいです。また将来の私が困ることがないように様々な検定や免許を取り、就職の際に選択肢を増やせるようにしたいと考えています。